

○令和6年度外部評価における評価委員からの意見・要望に対する佐賀県農業大学の対応状況

重点目標	主な意見・要望	令和7年度の対応状況
1 優秀な入学者の確保	<p>【農大情報の発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐賀農大の魅力や、やる気をもっと理解してもらうために、農大学生の元気な活動状況を SNS (YouTube、LINE、Instagram など) で幅広く PR してはどうか。 ・卒業後の出口 (就農・就職 100%実績) を強調してPRすることで、受験生の増加につながるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Instagram は、佐賀農大の公式アカウントを開設し、学生の感覚を活かしてコンテンツ作りを始めている。2/6 現在、6 投稿、79 フォロワー。 ・YouTube は、令和 4 年度に公式アカウントを開設し、主に職員が動画を編集してコンテンツ作りをしている。2/6 現在、116 投稿、170 チャンネル登録。 ・ポスター、チラシでのPRに加え、次元バーコードを印刷し、SNSに誘導している。 ・進路ガイダンス、オープンキャンパスでは、進路実績をPRしている。
2 高い技術力や経営力の習得	<p>【栽培技術の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新の環境制御技術等に目が行くが、植物の生理生態などの基本技術が最も大事である。学生へ十分習得させていただきたい。 <p>【経営能力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・儲かる農業の実践を進めるうえで、経営力を養い、農業簿記の指導を強化していただきたい。 ・学生の営農計画を策定指導する中で、経営収支を十分把握させていただきたい。 <p>【資格等の取得向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格取得の優位性をもっとPRしてはどうか。中でもフォークリフトは、就農や就職して有効に役立つので、積極的に受講させてほしい。 ・危険物や毒物・劇物の取扱者の資格取得については、学生へ積極的にチャレンジするよう指導してほしい。また、農業機械が近年高額になってきており、古くてもいかに長く持たせるかが経営コスト低減の重要なポイントになる。そこで、定期点検をはじめ、メンテナンスをして長持ちさせる整備技術も習得させていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の機会が多い農大の強みを活かし、生理生態の知識を座学で習得させるとともに、実際の生育状況の観察と記録をしながら栽培管理を行い、基本技術を習得させている。 ・農業簿記ソフトメーカーの講師を招聘して、パソコン上で簿記ソフトを使いながら、学生に分かるように講義を行っている。 ・卒業論文では、技術的な課題解決に加えて、収益 (所得) を意識したとりまとめを指導している。 ・大特免許、けん引免許、畜産専攻の家畜人工授精師は在学中に 100%取得を目指して取り組んでおり、PR をしている。 ・フォークリフトは、平日実習との調整を行ってでも機会を作って技能講習を受講させている。 ・危険物、毒劇物の試験対策として、受験前の集中講義を行っている。その他、ドローン、狩猟免許など資格取得を促進している。 ・農作業安全、GAPに取り組む中で、機械の日常点検を励行している。
3 全ての学生の進路決定	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
4 農業者研修の充実	<p>【農業組織の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業青年クラブ活動の活性化については、JA 青年部とは違う観点で、学生とより多くの接点やつながりを多くすることが、将来、地域に新規就農者が根付くのに有効だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は、農業青年クラブ冬季のつどいに農業大学生約20名を参加させた。冬季のつどいは、農業青年が日頃の営農活動で直面する経営や技術及び地域の課題に対し、創意工夫した改善事例、実践活動を通じた提言等を発表しあう場であり、就農を考える農大生には近い世代の農業者の取組や意見等が身近に感じられ、クラブ員にとっても将来の仲間づくりとなる等、お互いにメリットがあり有効だと思われる。